

CILとちぎ通信

第20号 平成27年9月30日発行



- | | | | |
|------------------|---|--------------|---|
| ・タウンミーティング in宇都宮 | 2 | ・2015年バーベキュー | 6 |
| ・自立生活センターでの実習の感想 | 3 | ・思い出 | 7 |
| ・私の地域で起きた大雨土砂災害 | 4 | | |

特定非営利活動法人 自立生活センターとちぎ

〒321-0923 栃木県宇都宮市下栗町2947-8 イースタンピュア 103

電話・FAX : 028-638-2538 E-mail : ciltochigi@silver.plala.or.jp

URL: <http://www11.plala.or.jp/ciltochigi/index.htm>

タウンミーティング in 宇都宮

ながたげんじ
永田元司

「障害者差別解消NGOガイドラインプロジェクト タウンミーティング in 宇都宮」をDPⅠ及びTDFとの共催で、9月5日に宇都宮東市民活動センターで開催しました。これは来年4月に施行される障害者差別解消法について、より理解を深めてもらい、「差別とは何か」「合理的配慮



とはどういうことか」などについて考えてもらうために行った学習会です。差別の問題や解消法について、県内の方々の間でどの程度関心があるのかわからず、何人集まるのか少し心配もありましたが、ほぼ満席となる100名近い方に

ご参加いただくことができました。

開催は午後からでしたが、今回は主に知的障害のある方に向けて、理解をしやすいように分かりやすく解説する事前説明会を午前中に行い、約20名ほどの方が参加してくれました。

午後からは、主催者挨拶として佐藤 聡 DPⅠ 日本会議事務局 長より学習会の趣旨や全国各地の差別解消条例に関する最近の動きなどを伝えていただきました。続いて来賓挨拶として、栃木県保健福祉部 障害福祉課長の國井隆弘氏より栃木県における障害者差別解消法への対応や取り組みについてお話をいただきました。また村上八郎 栃木障がいフォーラム 代表からは、これまでの栃木障がいフォーラムの活動を報告していただきました。そして、今村 登 DPⅠ 日本会議事務局 次長より「障害者差別解消法の対応要領・対応指針づくり」と題した基調講演がありました。差別解消法についての詳しい解説や、各省庁が進めている対応要領等へのDPⅠの働きかけなどを話していただきました。

その後グループワークとなり、差別の定義や種類等についてDPⅠの崔栄繁氏より説明を受けた後、10のグループに分かれて、実際に起きた事例について差別なのか、ハラメントまたは虐待と捉えるべきなのか、差別に当たるとすればどのような類型に当たるとのかなどを検討しました。どのグループもそれぞれに体験した事なども踏まえて熱心に話し合いが行われていました。



自立生活センターでの実習での感想

きのしたひであき
木下英亮

初めまして、週1回（金曜日）の実習であり、12日間と短い実習であり、お会いしたことがない人が多いと思うのですが、国際医療福祉大学の4年の木下英亮です。

実習施設選択理由としては、卒業論文のテーマが、「災害時における肢体不自由者に対する支援」であり、実際にあった体験の話や、災害時どのような支援が必要であると感じたのかなどを、インタビューさせて頂き災害時の肢体不自由者の実態や課題などを学ばせて頂くため自立生活センターとちぎでの実習を希望しました。

実際にインタビュー調査では、肢体不自由者が災害時に大変だと感じたことや、地震での現状そして、どのような支援が必要であると感じたか、などたくさんの体験を教えてくださいました。実際に、ヘルパーさんが地震の際に来ることが出来なくなる、電気・ガス・水道のライフラインが止まり、食べ物もなかなか手に入れる事が出来ない現状があり生活に苦勞したと全員が同じ悩みがあると感じました。このために、前々からヘルパーさんと災害時について話し合いそして、近所の人との付き合いや地域包括支援センターに呼びかけることも大切であると感じました。

練習では、自立生活センターについて詳しくまだ知らないため、自立生活センターとはどうゆう所であり、どのような活動をしているのか、自立生活センターの歴史など様々詳しく勉強させて頂きました。福祉は医療などと比べて歴史が浅く、制度などや差別に対してまだ詳しく決まっていないこともあり、これからはさらに肢体不自由者の権利を守れるように一人ひとり考えていかなければならないと感じました。

東日本大震災では、避難しなくてはならないが仮設住宅ではバリアフリーされているものの傾斜が高いため自力で登ることが出来ない事や、狭くて曲がる事が出来ないなどのために、手助けがないと外に出ることが出来ない。そして避難所では人に迷惑をかけてしまうため、家から避難することが出来ない状況にある人がいます。



これからこのような課題に取り組んでいく自立生活センターをより多くの人に知ってもらいたいと考えております。短い間でしたがありがとうございました。

私の地域で起きた大雨土砂災害

おおつかまきこ
大塚雅子

私の住まいは日光市(旧藤原町)の川治温泉です。去る9月中旬穏やかに暮らしていた私達家族がいる川治地区の様子が大雨により、一夜にして一変しました。自然災害とは縁遠かった川治にもあちこちに爪跡が残りました。

9日夜にテレビの災害情報を観ていた両親が危ないと判断し、地域の避難所へ避難する準備を進めてくれました。私は最初は避難をしなくても大丈夫と思っていました。それでも尋常ではない雨の降り方にさすが

にただ事ではないと怖くなっていきました。この夜はどうにも不安で寝
 けず、大雨の降り続けている中、雷の音が響き、この時、私の自宅の屋外
 で土砂崩れした箇所があり、地元の消防団員の方々が夜通し見回りをし
 てくれていたとの話です。

翌日の10日早朝に避難の町内アナウンスが放送されましたが、山
 の環境に反響してしまい、放送が聴



こえづらくなっていました。その様な
 中で地元の消防団員で私達家族をよ
 く知っている方が、「今なら車で通行
 可能だから早めに避難したほうが良
 い。」と声かけを頂いたので地域の
 公民館へ避難しました。避難の道すが
 ら沢の水が濁流となり、増水し、

所々木が倒れている所があったり岩がゴロゴロしていました。生まれて
 初めて怖いと感じた大雨土砂災害でした。

公民館への初めての避難。私の祖母も一緒にいてくれましたが、他の
 避難者の方からのりおにぎりを差し入れしてもらい、温かい心に感謝し
 ながらその方達の朝ご飯になるはずだったのであろうのりおにぎりを祖母と
 二人で分け合って食べました。「ありがとうございます。」とお礼も忘れず
 笑顔で伝えました。公民館での昼食は炊き出しで、塩おにぎり地元の
 精肉店のコロッケ、お漬物が振る舞われました。

テレビでは4年前の東日本大震災の時の様にテロップが出ていて「東北
 関東豪雨災害」と称され、関東で一番被害が凄まじかった茨城県常総市の
 報道が繰り返されていました。この他にも栃木、茨城の両県で河川の氾濫
 や土砂災害に至る所で被害があったことを知りま
 した。母の勤務している鉄道会社も運休となってい
 ました。仕事場である駅の裏山が崩れてしまう等、
 身近な所でも大変な被害になっていた所を見に行
 かせてもらった日もありました。

川治には川治ダムと五十里ダムがあるため、下流
 にがれきは流れてきませんが、ダム湖を見ると、



りゅうぼく なが た こわ かん でんしゃ しゅうかんていど
流水が流れ出していて、これにも怖さを感じました。電車は1週間程度で
かいつう げんざい でんりょく てつとう とうかい ふべん うんこう
開通しましたが、現在でも電力の鉄塔が倒壊して不便な運行になっている
とのことです。また ゆいっ せいかつどうろ こくどう けんどう いちぶ ほうらくかしょ
又、唯一の生活道路の国道や県道も一部で崩落箇所があり、
か かたがわつうこう で き よう いまいち うつのみや い きゅうにっこう
24日に片側通行が出来る様になるまで、今市や宇都宮へ行くには旧日光
きりふりどうろ まわ ばいちか じかん
の霧降道路を周っていつもの3倍近い時間がかかりました。

こんかい さいがい たいけん はや ひなん たいせつ じっかん とも ひなん せ
今回の災害を体験し、早めの避難の大切さを実感すると共に避難でお世
わ ちいき かたたち れいせい ひなん だす かぞく こころ
話になった地域の方達や冷静に避難の手助けをしてくれていた家族に心
かんしゃ おも
から感謝したいと思います。

2015^{ねん}年バーベキュー

ことし じりつせいかつ しき
今年もまた自立生活センターとちぎのバーベキューを、いつもの時期に
いつものみずほの自然の森公園で行いました。そして、今年も天気にも恵
しぜん もりこうえん おこな ことし てんき めぐ
まれて気持ちの良い秋空の下、いつも参加してくれる方々に加えて初参加の
きも よ あきぞら もと さんか かたがた くわ はつさんか
方々とともに楽しく食べたり遊んだりすることができました。

まいとし ひ お かりよく ちょうせい や かた うま
毎年やっているの、火起こしや、火力の調整、焼き方など、上手くな
っているのかと思えば、そうでもありません。火が弱いとか、焦げすぎた
おも ひ よわ こ
などと言いながら、何とか肉や野菜を提供しました。

も あ ひさ かたがた はなし いちにち
ゲームでも盛り上がり、久しぶりの方々ともお話をできて、いい一日が
す
過ごせました。



頑張って焼いています



美味しいです



ゲームの賞品



どれにしようかな

大物ゲット



おもいで
思い出

おおやまのりこ
大山智子

けいすいそんしょう びょういん すう しょい じたく もど まえ
頸髄損傷になってリハビリ病院などに数ヶ所行き自宅に戻る前に、
しずおかけんいとうし こくりついとうじゅうどしょうがいしゃ ねんかん にゅうしょ
静岡県伊東市にある国立伊東重度障害者センターに5年間リハビリ入所
しました。

ここでのリハビリ生活が、わたししょうがいしゃせいかつ おお よ へんか あた
私 の障害者生活に大きな良い変化を与えて
くれたことはまちが
間違いありません。

しょうがい ちが けいすいそんしょう お ろうにやくなんによ さい さい
障害レベルは違えども、頸髄損傷を負った老若男女(17歳から70歳
くらいまでと幅広い) 60名近くと5年間毎日毎日寝食・リハビリに励み
はばひろ めいちか ねんかんまいにちまいにちしんしょく へげ
過ごしました。OT、PTはもちろん、たいいく くるま そうさ ほうき
体育・車イス操作・パソコン・簿記
やクラブ活動でツインバスケットもけいけん けんじょうしゅ ととき おな
経験した。健全者の時と同じようにあ
る程度の社会性も身についた。というか、取り戻せたのかな。

ほぼ頸髄損傷者だけが集まる訓練施設だったので、病院に入院していたときより自分と他の人との障害の重さを比べて卑下することなく過ごせたことは精神的にも良かった。先輩達もいろいろなことを教えてくれてレベルの良い人がわるい人の手助けをしてくれたり、毎日が新しい発見で楽しかった。

月一ぐらいで訓練のない週末には、車イス数人だけで福祉タクシーを使ってみんなでカラオケに行ったり、伊東の街中の介護職員さんオスメの割烹やレストランに安くて美味しい御飯を食べに行ったり、美容室へ髪を染めやカットしに行ったり、化粧品屋にまつ毛パーマをしに行ったり、所長さんが商店街に協力のお願いをしてくれたこともあって街中が車イスの私たちを受け入れてくれ、入所の規律や制限はあったけれど健常者のころと似た楽しみも得ながら過ごすことが出来た。

先日福祉機器展で、その時代の友人と退所してから10年ぶりに再会した。ふたりとも歳を重ね四十代になったけれど、話出すとあの頃のままでのトーンで話しっぱなしだった。お互いの生活や健康状態、福祉サービスのことやその他諸々。

それから1ヶ月して、千葉から我が家まではるばる大量に美味しいごはんを仕入れて遊びに来てくれた。わたしが忙しいと御飯を食べる時間を削る癖があるのを知っている友人は、食事からデザートまで持ってきてくれたのだ。入所していたときも、夏バテで食べられないとき一緒に御飯に行こうと連れ出してくれたっけ。

たった3時間だったけれど、得たことが多くとても充実した楽しいひとときだった。おかげで元気も出た。充実した時間って大切だね。

来年には、その思い出の場所国立伊東重度障害者センターが所沢と合併してなくなってしまう。とても残念でならない。

きかんしこうどくかいいんほしゅうちゅう

機関誌購読会員募集中

じりつせいかつ きかんし ねん かいほうこう こうどく
自立生活センターとちぎの機関誌（年3回発行）の購読をしてくれる
かいいん ほしゅう かいいん とうろく かつ
会員を募集しています。会員として登録してくれた方には、CILとち
ぎのさまざまなイベントのご案内もいたします。年会費 300円